

6次産業のスキルアップ

ふくむらこうりゅう

福村康竜さん(19歳)

愛媛大学 農学部
食料生産学科
(周防大島高校出身)



#空一面を覆う星空

私は去年の春、愛媛大学に入学し、ひとり暮らしが始まりました。大学に行って気付いたことは、周防大島で経験してきた遊びをしたことのない友達が多く、自分の体験を話すと「そんな遊びをしてみたい」、「羨ましい」とよく言われます。また、周防大島では夜空を見上げたら空一面を覆う星空が見えますが、街では騒音も多く、空を見上げてても星空は見えません。

#農林漁業者の収入を向上

大学では、1次産業の生産、2次の加工、3次の販売までを手がけることで、農産物などの元々持っている価値をさらに高め、それにより、農林漁業者の収入を向上していくこと(6次産業化)がとても重要であると教わります。

周防大島にあてはめると、みかんを使った6次産業化(ジュースや缶詰)が主流だと思います。6次産業のスキルアップに繋げるために私が思っているアイデアは2つあります。

#インパクトで活性化

1つ目は、インパクトのある商品を販売することです。例えばみかん鍋は、名前と見た目インパクトがあるため、テレビや雑誌などの多くのメディアに取り上げられ、島外から食べに来る人が多いと思います。そのようなインパクトのある商品を販売することで、島の活性化に繋げることが出来るのではないかと考えます。

#無駄なく活用

2つ目は、みかんを無駄なく活用することです。ジャムや缶詰を作る際に出るみかんの皮は捨てられることがほとんどだと思えますが、陳皮にしてお茶を作る・お風呂に入れてみかん風呂にするなど、さまざまな使用方法が秘められていると考えます。

現代技術の活用で

しんじょうりゅうのすけ

新定竜之介さん(20歳)

近畿大学 産業理工学部
情報学科
(周防大島高校出身)



#特別だったこと

私は大学3年生で、福岡県でひとり暮らしをしています。福岡県に来て、改めて気が付いたことは、家のすぐ近くに綺麗な海がありすぐ泳げたことや通学時などに地域の人が声をかけてくれること、知り合いの漁師さんから新鮮な魚をもらってそれを家で料理することなどが特別だったことです。大学の友達にこういったエピソードを話すと、とても羨ましがられ、誇らしい気持ちになります。

#人の温かさ

帰省すると、福岡に帰りたくないと思うほど、周防大島の地域全体の「人の温かさ」が感じられます。そんな周防大島を多くの人に知ってもらう方法を、大学で学んだことから2点考えてみました。

#周防大島アプリ

まず、周防大島のおすすめ観光ルートや宿泊施設、体験施設などを案内する周防大島独自のアプリを作ることです。

事前によく調べて観光に行っても、目的地への行き方が分からなかったり、目当ての食事処が定休日でグダグダしてしまったりすることもよくあります。しかし、アプリと携帯内の地図を連携すれば、行き方や近くのおすすめの食事処が分かり、効率的に観光ができると思います。

#リアルタイム配信

次に、最初の案も周防大島の素晴らしさを知ってもらわないことには活用どころかアプリの存在自体知ってもらえません。

そのためには、サイクリング観光の映像や体験施設のサタフラのリアルタイム配信など、動画の録画、配信、視聴を1つのスマホ等の端末でできる現代の技術を活かせば、周防大島の素晴らしさを知ってもらうきっかけになるのではないかと考えます。

大学生が考える